



同窓会活動報告

山下 良太（18期生）

令和6年5月11日、久留米歯科医師会館大ホールにて、福岡県南地区同窓会学術講演会が開催されました。『令和6年度診療報酬改定の概要について』と題し、北嶋禎治先生（20期生）を講師に招き、令和6年6月からの歯科保健診療報酬改定に伴う要点、注意点を中心に講演をしていただきました。

今回の改定で「健康診断」が加わり、『口腔機能管理』、すなわち口腔内全体の包括的な健康診断が始まります。口腔機能管理料は、既定の検査項目（口腔衛生状態不良や舌圧検査など）のうち、いくつかの項目に該当した患者さんが対象となります。検査に係る器具や測定器なども必需であるため、今後購入が不可欠となってくる点にも注意が必要とのことでした。

また、スタッフの給与アップの補助金について一般的な歯科医院では請求するメリットはほぼないことや光学印象での歯科技工士さんとの連携などの点数も新たに加わってくることもなども興味深かったです。質疑応答も多く、同窓会会員にとって有意義な学術講演会となりました。



同窓生
からの年紙

同窓会活動報告

福岡歯科大学同窓会副会長（総会対策） 黒木 康夫（6期生）

令和6年5月18日、電気ビル共創館カンファレンスA（福岡市）にて、第60回定時評議員会・第46回定時総会が開催されました。その後、ホテルニューオータニ博多にて、旭日小綬章を受章された寺尾隆治先生（1期卒・元佐賀県歯科医師会会長）の記念講演、福岡歯科大学同窓会懇親会を開催いたしました。

定時評議員会、総会においては、第19期福岡歯科大学同窓会会長・監事選挙の報告があり、吉永修先生に当選証書が授与され、会長挨拶が行われました。同窓会一丸となって困難な時代に立ち向かっていく旨、力強く抱負を述べられました。

新執行部の役員案、令和5年度の決算案、令和6年度の事業計画、予算案等、第7号議案まで可決承認されました。

協議では、評議員より大規模災害時の同窓会支援について質問が出されました。同窓生が被害を受けた大規模災害としては九州北部豪雨災害や熊本地震、また令和6年1月元日に発生した能登半島地震が挙げられます。同窓会福祉共済規則による水害等の天災に対する見舞金は被害の状況に応じて規則に則り支給することになっています。

災害の程度、同窓被災者の数によっては、福岡歯科大学同窓会全体で義援金を募る場合もあります。

今回の能登半島地震において、被災されました同窓会員1名（石川県輪島市ご開業）に、4月開催の理事会、5月開催の評議員会・総会にて義援金を募りお見舞金をお渡しすることができました。

今後30年以内に発生する確率が70%から80%と予想されている南海トラフ大地震や線状降水帯の発生が頻発している昨今、豪雨災害も予想されます。

万が一被災した際に、福岡歯科大学同窓会会員で良かったと思っていたただく支援ができることが理想ですが、自助・共助・公助の3本柱が災害時支援の基本です。会員各自で民間保険を含む経済的備え、減災対策などの物理的備えもご準備ください。



クリニックからこんにちは!

Hi! From Clinic

同窓の皆さん、こんにちは。
そして、20期卒のみんな元気ですか!

篠原 勝久(20期生)

鹿児島市で開業している20期卒の篠原勝久です。卒後は鹿児島大学第二口腔外科に在籍して研修や臨床を学び、開業医での勤務を経て、現在21年目になります。

51歳になり人生の半分は歯科医師として過ごしてきました。まだまだ未熟と思いますが、歯科医師人生の振り返しに差し掛かってきました。その中で色々な言葉「思いに出会い、背中を押されてきました」「患者の症状や言葉を点で捉えず、一つ一つを繋いだ線で捉えて診察することが大事」と勤務医時代に「指導いただいたこと、開業直前に不安を抱えていた時」「3年踏ん張れ!そしたら患者が証明してくれる」という励まし。私の原点は先輩方のそういう言葉「思いであり、今も支えです。私のクリニックのモットーは、「清潔、親切、丁寧、安心」です。「患者に寄り添う、患者目線」を大事にすることが1番だと思っています。今こうしていただけるのは、患者に寄り添い患者の言葉(思い)を聞き続けて、患者が20年やってきたことは間違いじゃないと証明してくれた。言葉の力を信じて残りの歯科医師人生を楽しもうと思います。

卒業生
NOW

日本を変える歯科の
”チカラ”

成富 健剛(10期生)

こんにちは。私は歯科医として、最近新たな情熱を見つけました。それは『子どもの口の育成』です。

約8年前までは子どもの矯正治療に興味がなく、後輩の矯正専門医に丸投げでした。

ある時、高齢者の食事支援の必要性を感じ、摂食嚥下について学びました。たくさんの方の出会いとご指導のおかげで広く学びを深める中で、現代の子どもの口の現状に驚きました。「高齢者と同じじゃないか!」そう思いました。

それから、将来の日本を担う子どもたちが健全に育つためには、口の育成が非常に重要だと感じるようになり、講演活動や電子書籍、メルマガ、ブログを通じて、口の健康の重要性を伝える活動を始めました。

先日は佐賀県歯と口の健康づくり研修会での講演依頼を受け、学校の先生方に子どもの口の育成についてお話しする機会をいただきました。

「口は命の入り口、心の出口」といわれるように、口の育成は子どもたちの生きる力に大きく関わっています。これからのこの活動を続け、多くの方々に伝えていきたいと思っています。

メルマガ
二次元コード